＜ハトバ製陶所について＞

九谷焼の陶芸家であった武田朋己氏が 2024 年に五島列島に移住し、江戸時代に五島列島福江島で焼かれていた磁器の器「五島焼」を復活させるために立ち上げた製陶所。
「五島焼」は、長崎大学教授によって、今現在も、発掘、研究中であり、まだまだ謎多き焼き物であるが、150 年という時を経て五島焼復活に挑んでいる。
今は鉱山から粘土になりえる土を採取し、土づくりの試行錯誤中。1～2年中には五島焼復活を目指している。五島焼完成までの過程では、ワークショップを行い、五島の人たちに五島焼の認知を広める。
そして、「五島焼」復活にとどまらず、全国への認知、流通を目指す。

ハトバ製陶所では、五島市三井楽町八ノ川海岸にあり、山々と五島の美しい海を楽しみながら、器の購入も可能。また、季節によって器を変えていた日本人の粋な文化を後世に伝えていきたいという想いから～服を着替えるように器も着替えよう～をコンセプトに、器を楽しむ製陶所カフェ「波止場パーラァ」も併設している。五島焼が完成した際には、ここが五島焼のアンテナショップとなる。

今回、コラボ商品発売記念として『波止場の詩』コラボプレートとロックグラスを「ハトバ製陶所」でも販売。
「波止場パーラァ」では 4 月 26 日～5 月 6 日の期間プロモーションを展開。
コラボプレートを使いジンの香りを楽しむデザートを提供、コラボロックグラスでジンも楽しめる。

【ラベルの制作意図】
五島で採れた苺を使ったジンでのコラボの話をいただいた時は、嬉しくてわくわくしました。
熟れた苺の持つ赤色をメインにデザインを考え、五島らしさを表現したくて、椿を描き、可愛さよりも大人っぽさをテーマにしました。
ハトバ製陶所は、三井楽町の八ノ川海岸の目の前にあります。その窓からいつも眺めている山々と、刻一刻と変わる海の色をどうしてもこのデザインに封じ込めたくて、さまざまな海の色をした山々を描きました。
また、製陶所からほど近い所に、空海が、遣唐使に出発する際立ち寄った、日本最後の寄港地があります。
先人たちの命をも顧みずに果敢に新しいことを求めて挑戦する姿、その歴史にも思いを寄せ、遣唐使船が無事に波止場に向かって帰ってくる様子も描きました。

以上